

## 兵庫県南東部におけるオサムシの棲息状況

～三田市北西部から篠山市南西部一帯について～ (続報)

神吉 正雄<sup>1)</sup>

### 1. はじめに

本誌第 39 巻第 2 号で「兵庫県南東部におけるオサムシの棲息状況～三田市北西部から篠山市南西部一帯について～」を報告したが、その報告では明らかに出来なかった調査地北西部の四斗谷川上流部、北東部の波賀野川流域部と中西部の釜屋一帯で補充調査を行ったのでここに報告する。

今回の調査目的は、前報告で明らかにした三田市北西部から篠山市南西部一帯におけるアキオサムシ *Carabus (Ohomopterus) chugokuensis* の棲息地の周辺部を調査することにより、既棲息地である兵庫県中部山地帯との連続性をより明白にすることと西部への広がりを確認すること、同時に体型や生態に類似性のあるマヤサンオサムシ *C. (O.) maiyasanus* の棲息実態の把握も行うことを目的とした。

調査方法とその期間は、前回と同じくベイトに氷酢酸希釈液 (30%) を使用したピットフォールトラップによる調査を 2017 年 6 月 1 日から 20 日まで行った。

なお、筆者らは白髪岳山地の高層部に当たる四斗谷川上流部と天神川上流部一帯の冬季調査等<sup>\*1</sup>をこれまで行っているなのでその資料と筆者が波賀野川流域部で実施した冬季調査<sup>\*2</sup>の資料も提示し、白髪岳山地一帯と前回報告した虚空蔵山地との関連性を把握しやすくした。

\*1: 神吉正雄・石川延寛・久保隆弘が 2015 年 1 月 11 日四斗谷川最上流域の白髪岳西 Alt370m でマヤサンオサムシ 1 頭、白髪岳南西 Alt320m でアキオサムシ 1 頭、マヤサンオサムシ 4 頭、クロナガオサムシ 1 頭 5 頭を、天神川最上流域の白髪岳南東 Alt400m でクロナガオサムシ 1 頭 1 頭を冬季採集で確認。谷川忠久が 2014 年 6 月 1 日に四斗谷川最上流域の白髪岳南東 Alt310m でアキオサムシ 2 頭を確認している。(図 1-A)

\*2: 神吉正雄が 2016 年 12 月 19 日波賀野川中流域の見内 Alt260m でクロナガオサムシ 1 頭を、波賀野川下流域の波賀野 Alt230m でクロナガオサムシ 2 頭 1 頭を冬季採集で確認している。(図 1-C・D)

### 2. 補充調査により明らかになった各オサムシの棲息地

#### 1) 北西部の四斗谷川上流域について (図 1-B)

調査は、篠山市今田町下小野原から今田町四斗谷一帯で、ピットフォールトラップによる調査を 2017 年 6 月 3 日から 13 日まで 15 カ所で行った。

その結果、ほぼ全域でアキオサムシ、マヤサンオサムシを確認することができた。詳細に見ると、和田寺山山地北麓に当たる今田町下小野原においてもアキオサムシ、マヤサンオサムシを共に確認でき、古市断層線北部の西寺山山地南麓においてもアキオサムシ、マヤサンオサムシを確認したが、いずれもマヤサンオサムシが優勢でアキオサムシが少なかった。四斗谷川流域の今田町四斗谷でもアキオサムシ、マヤサンオサムシの棲息が確認できたが、トラップへの落下数は上流へ行くほど減少していた。クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus* については今回の調査時期が成虫の出現端境期に当たるため下小野原北部と四斗谷の 4 カ所のみで確認するとどまった。ヤコンオサムシは出現期であるが全く確認できなかった。全確認頭数はアキオサムシ 5 頭 15 頭の 20 頭、マヤサンオサムシは 12 頭 17 頭の 29 頭、クロナガオサムシは 1 頭 3 頭の 4 頭であった。

このことにより、アキオサムシの棲息地は四斗谷川上流部の両岸に棲息し、白髪岳山地一帯に連続することがより明白になった。また、和田寺山山地北麓ないし西寺山山地の東麓から南麓にもアキオサムシ、マヤサンオサムシが棲息し、クロナガオサムシも棲息していることが確認できた。ヤコンオサムシの棲息は無かった。

#### 2) 北東部の波賀野川流域周辺について (図 1-C・D)

調査は、篠山市古市～見内 (C)・波賀野一帯 (D) で、ピットフォールトラップによる調査を 2017 年 6 月 1 日から 11 日まで 14 カ所で行った。

その結果、古市から北東の波賀野川水系に当たる見内一帯のほぼ全域にアキオサムシ、マヤサンオサムシが棲息していることが判明した。クロナガオサムシについては成虫の出現端境期に当たり古市北の 1 カ所で確認できたにとどまったが、筆者が見内での冬季採集時に 1

<sup>1)</sup> Masao KAMIYOSHI 兵庫県宝塚市

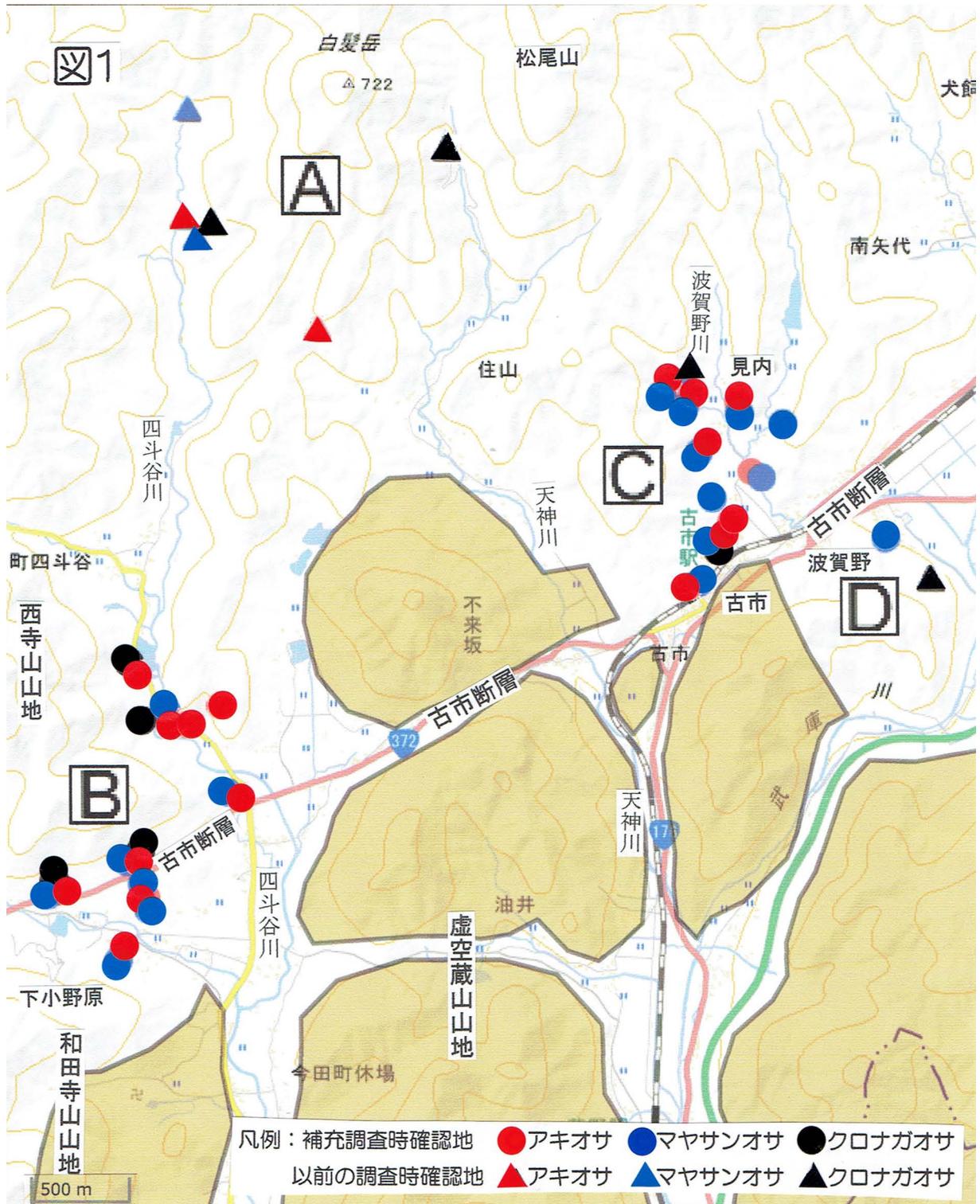


図1 調査地概略図（図中の黄土色部分は前号で調査結果を記載した地域）。

♂を採集しているので波賀野川水系にもクロナガオサムシが広く棲息していると考えられる。ヤコンオサムシは出現期であるがこの地域でも全く確認できなかった。全確認頭数はアキオサムシ 12♂ 28♀の40頭、マヤサンオサムシは5♂ 17♀の22頭、クロナガオサムシは1♂の1頭であった。

このことにより、アキオサムシ・マヤサンオサムシ

は白髪岳東の松尾山南麓にも棲息することが判明し、白髪岳山地一帯に広く棲息していることが確認できた。

北は古市断層、東は武庫川、西は天神川に挟まれた古市・波賀野の孤立した低山地帯東麓部の波賀野（D）で2017年6月1日から11日までピットフォールトラップによる調査を2か所で行った。この低山地の北部から南部の西半分一帯は既に調査済みで、マヤサンオサムシ、

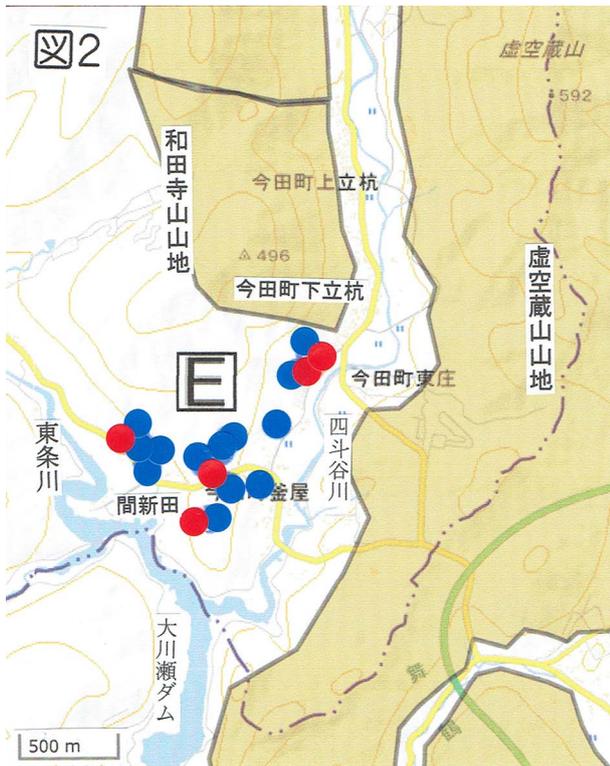


図2 篠山市今田町釜屋一带の調査地概略図.

クロナガオサムシが棲息し、南部の一部で局所的にヤコンオサムシが棲息していたがアキオサムシの棲息は見られなかった。また、東部については既にクロナガオサムシを確認<sup>2</sup>しており、クロナガオサムシはこの低山地全域に棲息していることが明らかになっている。

波賀野における調査の結果はマヤサンオサムシ3♀のみで、アキオサムシの確認はできなかった。これにより、この孤立した低山地部にはアキオサムシが棲息せず、マヤサンオサムシとクロナガオサムシが全域に棲息、ヤコンオサムシは南部の一部のみ棲息していると考えられる。

### 3) 中西部の今田町釜屋一带について (図2-E)

調査は、篠山市今田町下立杭から釜屋、間新田一带で、ピットフォールトラップによる調査を2017年6月9日から20日まで13カ所で行った。

釜屋地域での調査は、前回未調査であった和田寺山山地南部地域におけるアキオサムシ・マヤサンオサムシの棲息状態の把握が主目的である。この場所は地形的には、四斗谷川下流と東条川に挟まれた場所である。四斗谷川右岸の和田寺山山地東麓一带には広くアキオサムシ、マヤサンオサムシ、クロナガオサムシの棲息がこれまでの調査で明らかになっているが、南麓部の棲息状態は未調査であった。

今回の調査の結果はマヤサンオサムシは全域で密度高く棲息が確認できた。しかし、アキオサムシは下立杭

付近までは高密度で棲息していたが、南の釜屋から間新田一带では棲息はしていたが希薄となり11カ所中3カ所しか落下しなかった。

このことから、アキオサムシの棲息は和田寺山山地南麓部でも見られた。しかし、その密度が低いため、和田寺山山地西麓からさらに西方への棲息状態の調査が今後必要である。

全確認頭数はアキオサムシ10♂24♀の34頭、マヤサンオサムシ10♂37♀の47頭であった。クロナガオサムシ、ヤコンオサムシは落下しなかった。

### 3. おわりに

今回の補充調査により、兵庫県中部山地帯と連続する白髪岳山地(松尾山含)から流下する四斗谷川・天神川・波賀野川水系の中・上流部までほぼ連続してアキオサムシが棲息していることが明らかになり、中・下流域の虚空蔵山山地・和田寺山山地との連続性がより明白になった。同時にマヤサンオサムシ・クロナガオサムシも同様に3水系に広く棲息していた。古市・波賀野の低山地(D)はマヤサンオサムシ・クロナガオサムシおよび一部でヤコンオサムシを確認していたがアキオサムシの棲息を確認できなかった。

和田寺山山地南麓の釜屋一带にはアキオサムシは棲息していたが棲息密度は希薄でマヤサンオサムシの占有率が高かった。このことから、今後の課題はアキオサムシの分布が和田寺山山地西麓からさらに西方での棲息状態を把握することである。

末筆ながら、本補充調査に協力頂いた石川延寛、久保隆弘、谷川忠久の各氏にお礼を申し上げたい。

追記：今田町釜屋一带で2017.10.26～10.31にクロナガオサムシのトラップ調査(コップ15個設置)をし、♂1頭を採集した。この一带はクロナガオサムシが極めて少なかった。

### 参考文献

- 井村有希・水沢清行, 2013. 日本産オサムシ図説, 昆虫文献六本脚.  
上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝, 1999. 原色日本甲虫図鑑II, 保育社.